

---

# 大川さん家の居候

夏野

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

大川さん家の居候

### 【Zコード】

Z2223Z

### 【作者名】

夏野

### 【あらすじ】

大川さん家には少し不思議な居候が住んでいる。天然はつらつ系美形居候と名前負けしまくりのローテンション女子大生長女が繰り広げるファンタジックラブコメディー（ラブの成分比は変動します）。

## 序話 バックドロップと居候（前書き）

この作品を年齢スキーに捧げます。

備考）

本作は食べられません。

## 序話 バックドロップと居候

「ひなた　ひなたひばつー起きよーよ。朝だよ。すがすがしい  
夏休み初日の朝だよ」

耳触りのいい高めの声が寝室に響く。

私、大川ひなたの朝は居候のモーニングコールから始まる。低血圧の私は朝が弱い。ふらふらと半身を起こし、寝ぼけ眼でベッドサイドの片隅にひしめき合つて立つて乱立する用意もし時計をみやると、5時半を指している。

「じ・・・はん・・・だと・・・

「　クレアちゃん・・・私言つたよね・・・10時より一分でも前に起こしたら生まれてきたことを後悔させてあげるって。必ず後悔させてあげるって。どんなに起き抜けがしんどいとしても絶対に逃さないって」

今のはかのフーザ様さえ指先一つでダウンやーこうこう混じつている気がするが気にしない！

「めえは俺を怒らせた・・・

ふつふつとボルテージを高める。

「だつてー！」

Hプロン姿の少年は口をとがらせる。

「問答無用」「うれしかったんだもんーー」「…」

はい？

「長期休みだから一緒に過ごせるんでしょう？大学にしばらく行かないんでしょう？一緒に遊んだり家事したりできるんでしょ！お盆の旅行だって楽しみだし」

一気にまくしたててくれる。

「……で？」

「……うつかりボクが起きた勢いでひなた起しちゃった……」「めんなさい」

生まれてきたことを後悔させる前に涙目でうなだれている居候クレアを見てしまつどどうにも怒れない。普段迷惑を掛けられたためしが無いというのも情状酌量の余地を大いに作っている。男の子で13歳といえばやんちゃな年頃、だと言つのに聞き分けがないし、大人びているし、それでいて素直でひねくれていない。なんとか天使のような中身なのだ。

外見にしたつて女の私ですら負けを素直に認めざるを得ない端正さだ。褐色の肌は艶やかで肌理が細かく、腰まで伸ばしている長い銀髪はどこぞのシャンプーのCMに出演している女優に勝るとも劣らない。こんなとこかコンプレックスを刺激しまくつつも母性本能に訴えかけてくる非常に厄介な生き物なのだ。

「……ん？私の姿姿だと？そんなもん言つものか！誰が好き！」のんで美形と並べて描写されたいものか！

「……いつもいつも上田遣いが通用すると思わないことだね。明日からちやんと自制してくれるなら許したげる」

まあ最近かまつてあげてなかつたしね　主に定期試験のせいだけ  
ど。

「ありがと！　もう一度寝る？」

かいがいしく床に投げ出されたタオルケットを私に掛けよつとする。

「　起きる」

さすがに6つ下の子供に「一度寝する様を見せつける気は毛頭ない。  
ん？手遅れだと？その意見は却下する。

「ひなただーいすき」

ギュッと私に抱きつくクレア。シャンプーの残り香はいい。けれど  
今は早朝とはいえ、真夏なのだ。

暑い

「は・な・れ・な・さ・い！」

大学生初めての夏休み初日。私はバックドロップを6つ年下の少年  
に極めた。

両親にはじひびく絞られたが私は間違つてはいない・・・はずだ。朝のまどろみこそ至宝の時間だと思つ。それを邪魔したのだから、それ相応の報いは受けるべきだろひ。

「理不尽だ」

「「ビリ」がーー。」「

即座にハモリで突つ込みが入つた。借りていた本を返し終えての大字付属の図書館からの帰り道、私は今朝の顛末について至極まつとうな感想を口に出したのだが。

「クレア君も苦労するよ。こんだけ尽くされてるのにありがたみを感じないヤツ（ひなた）にひつかかっちゃつてや」

ため息をついたのは佐野梓。さのあさづいまどき黒のポーテールを崩さない涼しげな田元がチャームポイント（？）の小柄な美少女だ。

「やうだよねー。愛妻弁当まで作つてもらつてアンタいちゃもんつけてなかつたつけ？」「

ジト目でこちらを睨みつけてくる背が高い方は西園寺真奈美。さいおんじまなみ紅茶色に染めたショートボブが今風（？）のきれいな「」だ。

「・・・鮭フレークでハートマークでかと描かれたら文句も出るだろ」

ぼそっと呟く私に両サイドから姦しく罵詈雑言を浴びせかけてくる。

曰く

あんなできた「やうそいないよーー。  
美形で気立てが良くて家事も上手い  
おまけにあなたに好意を抱いてる  
しかも同居しているのだろう?  
朝起こしても「うとかどんだけだよ

(二人とも彼氏持ちじゃないか・・・)

口に出しかけて飲み込む。関係ないと切り捨てられるのがオチだ。

「これ以上騒きたてたら、講義ノート来期から有料化してやる」  
いい加減うつとうしいダブルスピーカーはピタリとやんだ。よく訓  
練された女子大生だ。

「やついや明日さ。映画つて何見るんだつけ?」

「アンタね・・・誘つた張本人でしきつが」

「クレアにせがまれたからわ」

「「あの子も一緒かつー.」」

「?言つてなかつたつけ?」

「学割だし安いっていう理由で誘われた気がするんですけど?」

真奈美がげんなりした顔で「ほす。

「どーせアンタが渋つたからクレアくん妥協案出してきたつてとこ

なんじゃないの?」

暑いのに外出したくないとか何とか言つてか、と見てきたように梓が呟く。

「えすぱー佐野」拍手をてきとーに送る。

「「あんたこそ教育し直す必要がありそうね」」

私はさながらグレイタイプ捕獲のように、両腕をがっしりとホールドされて近場のドトールに引きづり込まれ、一時間膝詰めで説教を食らつた。

理不尽だ。

## 序話 バックドロップと居候（後書き）

あなたのお暇を慰めるお手伝いになれば幸いです。  
宜しくお願いします。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2223n/>

---

大川さん家の居候

2010年10月10日14時21分発行